

グローバルスタートアップキャンパス構想
《事業化支援プログラム》
LAUNCH UK 公募要領

GATS プロジェクト運営事務局（運営支援機関）

■ 本事業の目的

政府が掲げる GSC 構想では、国内外の優秀で野心的な研究者及び起業家、スタートアップ、先見的なベンチャーキャピタル（以下 VC とする）、アクセラレーター及びインキュベーター、企業との連携により、我が国全体のイノベーション・エコシステムの変革を促進し、世界最高水準のイノベーション・エコシステムのハブを構築することをミッションとしている。「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想先行的活動に関する実施方針（令和 7 年 6 月 10 日）」及び「同実施細則（令和 7 年 6 月 10 日）」では、世界から優れた人材・投資を集める呼び水となるよう、海外機関との連携による、①研究者・投資家等の集積に向けた国際研究、②事業化支援、③人材育成（フェローシップ）を先行的活動として一体的に実施し、これらの取組を通じて、本構想の実現に向けた取組の具体化・高度化につなげるとともに、ステークホルダーとのパートナーシップを構築することとされている。

本プログラムは②事業化支援において、イギリスの名門・Imperial College London（以下 ICL）の手法を用い、フィジカル AI・ロボティクス、クライメートテック分野の技術シーズが抱えるリスクを定量的に分析し、不確実な要素をロジックで整理し、イギリス市場との接続までを視野に入れた「事業設計図」を科学的に磨き上げる事業化支援プログラムである。詳細は以下のとおり。

■ LAUNCH UK（実施概要）

本プログラムが重視するのは、米国中心の既存プログラムとは一線を画す、独自の価値提案。ターゲットは脱炭素の規制や市場動向が世界をリードする欧州。フィジカル AI・ロボティクス、クライメートテックを筆頭に、今後本プログラムの対象領域への追加が検討される先端領域においても、日本発の技術が真に優位性を持てる未開拓な市場を戦略的に選択している。競争が激化する市場を避け、世界のルールメイカーと直接つながるための「欧州拠点」を提供する。

本プログラムの舞台はロンドンの最新イノベーション拠点「ホワイトシティ・イノベーション・ディストリクト」。ここはラボや投資家、スタートアップが徒歩圏内に集約された、研究の社会実装に特化した自己完結型のエコシステム。このプログラムでは、三週間にわたってこの環境に完全に身を置くことで、世界トップレベルの産業連携やインキュベーションの現場を肌で感じ、自らの研究成果や技術を「事業」の視点で捉え直す機会を獲得する。現場での対話を通じて、グローバル市場で戦うための実利的な戦略を描くことが可能になる。

さらに、本プログラムでは、ビジネスの不確実性に対し、科学者としての厳密さを保ったまま挑むための思考ツールを提供する。ICL が採用する「ベイジアン・アプローチ」とは、新たな情報（実験結果や市場反応）を得るたびに、成功の確率（仮説）を定量的に更新し続ける実践的なフレームワークである。不確実性を単なる「不安」ではなく、確率論に基づき制御可能な「データ」へと変換し、体系的にリスクを低減させる。3 週間の対面研修とアドバイザーとの対話を通じて、外部資金調達にも耐えうる強固なロードマップの構築が可能になる。

ICL 概要・実績等

ICL は、STEM（科学・技術・工学・医学）に特化した世界トップクラスの大学であり、特に起業家支援において英国・欧州でリーダー的存在である。2024 年には、スタートアップ創出数で欧州第 1 位の大学（Redstone University Startup Index）に選出されるなど、欧州の中でもトップクラスの起業家育成支援実績を持つ。加えて、日本企業と長年にわたり大規模な産学連携を行っており、日本のアカデミア・産業界への理解が非常に深いのも特徴。

ICL のスタートアップ・エコシステムは、単なる教育に留まらず、実際に巨額の資金を調達するユニコーン企業を輩出している。ICL 関連のインキュベーション施設の入居企業は、累計で 10 億ポンド（約 1,900 億円）以上の投資・助成金を獲得している。著名な事例では、ICL のスピナウトから始まった燃料電池企業であり、英国で最も価値のあるクリーンテック企業の一つ「Ceres Power」。海藻由来のパッケージング技術で「アースショット賞」を受賞した「Notpla」、世界初の商用量子コンピュータを目指す企業「PsiQuantum」等がある。

1. 活動期間と主な活動内容

- ▶ 活動期間：2026 年 9 月の 3 週間（イギリスでのプログラム後においても、必要に応じてフォローアップあり）

- ▶ 活動内容と活動時期（暫定内容）

A) ホワイトシティ・イノベーション地区での 3 週間現地集中プログラム：2026 年 9 月

第 1 週：基盤構築と技術的検証

- ベイジアンアプローチを通じて、事業を構成要素に分解し、現在の確信度を定量的に評価する。
- プロトタイピングとして White City のハックスペースで、フィジカル AI・ロボティクスやハードウェアの迅速な試作手法を学ぶ
- デザイン思考について、ダイソン・デザイン工学塾で、ハードとソフトの高度な統合プロセスを体験する。
- 最も優先度の高いリスクを特定し、事業について測定可能な実験プログラムを設計。
- この活動を通じ、勘ではなく、証拠に基づいた事業検証フレームワークとしての科学的な意思決定基準等を獲得する。

第 2 週：ガバナンス・規制・スケーリング

- 法規制の攻略のために、英国 AI ガバナンス、EU AI 法、知財（IP）、契約実務のマスタークラスに参加する。
- エコシステム深掘りとして、クライメートテックハブ（インペリアル・カレッジ・ロンドンとロイヤル・ピッチ・プラットフォームが共同で運営している気候変動対策に特化したイノベーション拠点）やロンドン各地のイノベーション拠点を視察。

- 市場参入戦略について、英国・欧州市場への進出ロードマップと、国境を越えたオペレーション体制を構想する。
- 組織体制の整備のために、アドバイザリーボードの設置方法や、グローバルな価格設定・パッケージング戦略を練る。
- 上記活動を通じて、複雑な欧州規制を逆手に取った市場参入ルートの把握、投資家やアクセラレーター、現地のステークホルダーとの強固な繋がりを得ることで、自信を確信に変え、英国・欧州市場への扉を開く。

第3週：投資準備とコミュニケーション

- 専門家からのフィードバックを受けながら、事業のストーリーテリングを反復練習し、ピッチの磨き上げを行う。
- 英国の投資家像（ペルソナ）の特定、データルーム（投資判断資料）の整理、資金調達環境の学習することを通じ、資金調達戦略を練る。
- ホワイトシティ・インキュベーターの入居スタートアップと交流し、実戦的な知見を交換する。
- 3週間の集大成として、英国市場参入戦略とアクションプランを発表する。
- この週の活動を通じて、投資受入準備完了状態として、洗練されたピッチ資料、整理されたデータルーム、具体的な資金調達ルートを描くことができる。また、プログラム終了後、即座にアクションに移せるマイルストーン付きの事業計画書を構築することができる。

※活動期間と主な活動内容は変更になる可能性がありますので、ご注意ください

2. 支給・支援内容

A) 3週間現地集中プログラムの渡航費・滞在費（※1）

※1：上限あり。加えて以下の経費は対象外。また渡航費・滞在費は、予め対象者自らが取得したものについて、領収書及び各種証票（採択時に支給するマニュアルに清算方法を記載予定）及び請求書を受領後、当月締め翌月末払いにて事務局より清算払い。

- 1 エコノミークラスを超えるクラス（プレミアムエコノミークラス、ビジネスクラス等）に搭乗するために要する追加費
（電車、船等の場合も、原則最も低いクラスの移動費のみが対象）
- 2 滞在時の飲食費・懇親・遊興関連費
- 3 上限を超過した渡航費・滞在費
- 4 本プログラム参加に直接的に必要なと判断できない費用
- 5 対象者本人以外の渡航費・滞在費や上記1～4に該当する費用

3. 参加者の要件等

参加者は、上記に記載する類型ごとに、以下に記載する必須要件を満たす必要がある。また合致する任意要件がある場合は審査において加点評価を行う。

《必須要件》

A) 博士後期課程在籍者、アカデミア所属の研究者（ポスドク、教職員等）、または大学発技術を活用するスタートアップの創業者・CXO

*応募者自身の IP を活用する、または研究室の IP の活用を許可されている限りにおいて
は、上記以外の属性も可能。

B) 技術の事業化・ライセンス展開を検討中で、少なくとも PoC（概念実証）段階に達していること

C) 会社設立済みの場合、エクイティ調達（J-KISS、SAFE 等を含む）を未実施であること

D) 英語で円滑なコミュニケーションが可能なこと

E) ロンドンでの全日程に対面参加できること

F) 日本国内の重要技術の国外流出につながる、もしくはその懸念のある活動等に参画及び関与しないことを誓約することができること

4. 選定人数

若干名

5. 公募期間

以下の通りのスケジュールにて公募を実施する。期間中は申請都度、順次以下 6. に示す通りの審査を行い、採択を行う。

公募期間：2026 年 4 月 1 日（水）～2026 年 6 月 1 日（日）終日

6. 選考プロセス

A) 書類審査（英語の CV および動画提出含むアプリケーションフォーム）

基本要件の国際経験（言語レベル）、学歴、職歴（年数）等公募申請情報について事務局内で書類審査を実施

B) 運営チーム及び ICL による審査（面談）

基本要件のコミュニケーションスキル、専門性の評価に加え、技術シーズに基づく起業に対する熱意や、本プログラムへの参加にあたって確保可能な時間等を確認

C) アドバイザー等による最終確認

参加者としての総合的な適性を評価

参考情報：GATS プロジェクト運営事務局（運営支援機関）概要

本事務局は、内閣府が推進するグローバルスタートアップキャンパス構想（詳細は以下 URL 参照）における、②事業化支援・③人材育成事業に運営支援機関として採択されたもので、東京大学協創プラットフォーム開発株式会社と株式会社博報堂の連携により運営されている。

グローバルスタートアップ構想概要：

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/global_startup_campus_initiative/index.html

東京大学協創プラットフォーム開発株式会社概要：<https://www.utokyo-ipc.co.jp/>

株式会社博報堂概要：<https://www.hakuhodo.co.jp/>

本事業概要：<https://gats-web.jp>

お問い合わせ先：info@gats-web.jp